

評価企画室ニュースレター

The Office of Planning and Evaluation News Letter No. 4

データから勇氣ある知識人を育む、名古屋大学の良い文化遺伝子を探します。



第4号

2008（平成20）年1月 発行
編集：名古屋大学評価企画室

名古屋市千種区不老町D3-7（100）（〒464-8601）
TEL: 052-789-5925 ■ http://www.epe.provost.nagoya-u.ac.jp

室長メッセージ

国立大学法人の第一期中期目標期間は折り返し地点を過ぎ、後半の正念場に差し掛かっています。来年度には、法人評価として、所謂「20年度評価」が実施され、これまで段階的な評価を免除されてきた教育・研究活動にも部局毎の詳細な自己点検評価が求められます。折しも本学は、大学機関別認証評価を今年度受けているところです。この二つの評価は、特に教育活動に関しては大きな重なりがありますが、評価の視点、観点は相当に異なっており、自己点検にもそれなりの工夫が要求されます。これらは、大学の中核となる活動状況を社会に示すことにより説明責任を果たす役割と、自己点検による活動の改善への二つの側面を持ちます。教育、研究共に数年というような比較的短い期間の活動状況のみに対して評価を下す事への是非は、各所で議論されているところではありますけれども、現行の法律制度の下では肅々と進ませる以外にないと感じております。構成員の皆様と大学本部・評価当事者が知恵を出し合って、合理的かつ規律ある自己点検を行なう事で、上記二つの目的を叶えてゆきたいと考えます。引き続き皆様の御協力を切にお願い申し上げます。

評価企画室室長 副総長 松下裕秀（工学研究科教授）

国立大学法人評価の本番がきます・・・中期目標・中期計画の20年度評価

2004（平成16）年4月、国立大学が法人化されるにあたり「中期目標・中期計画」の仕組みが導入されました。これはミッション・ビジョンによる目標設定と自己点検によるマネジメントを、大学が責任をもって実施することで自律した学習組織（Plan-Do-Check-Actを実現できる組織）を目指すためのものです。大学が目標に照らして自己評価することで、修正点を見つけ、次の計画に反映させる仕組みを構築し、機能させることが求められます。

第二期の運営費交付配分額は平成21年度に決定される必要があり、そのためには平成20年度に算定根拠となる第一期の暫定結果が必要となります。したがって、法人化後4年間を総括する評価作業が今年度、必要になります（詳細はニュースレター第3号をご覧ください。）

20年度評価では、年度評価では外形的な評価のみなされていた教育や研究も評価対象になります。大学組織として中期目標・中期計画の達成度評価に加えて、現況調査表では部局ごとに教育研究の活動成果を目的や方針に照らして自己評価します。今回、学術面に加え、社会・経済・文化面の活動も含まれます。研究者の個人評価ではなく、研究者が集まった学部・研究科等の組織評価であることに留意する必要があります。したがって、その基盤になる専攻や学科単位での活動が大きな意味を持っています。

今年度は、その第二期中期目標・中期計画（平成22年度～27年度）の作成準備を開始しなくてはなりません。

（栗本英和）

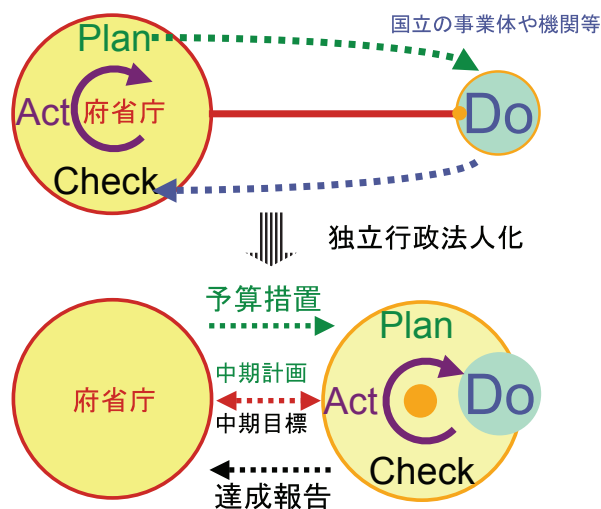


図 自律組織から見た「中期目標・中期計画」の意味と考え方
（栗本：日本評価学会第8回全国大会（2007.11.10）

シンポジウム「中期目標・中期計画」資料）

評価企画室からのお願い

名古屋大学の卓越した文化遺伝子を探しています。データからここが**No.1**、あるいは**Only One**を教えてください。本学の誇りを発見し、共有したいと思います。

office2007@epe.provost.nagoya-u.ac.jp

大学機関別認証評価における訪問調査（報告）

2007（平成19）年11月1, 2日に下記の日程で訪問調査が行われました。評価結果は2008（平成20）年3月に公表されます。

評価部会から、訪問調査の面談を通して、「学生が生き生きと学修をしている。」「教職員、学生を含め、女性の活躍が目立つ。しかも、皆が志を持っている。」「卒業生は『名古屋大学を卒業して良かった』と心から思っている。」「先輩、後輩の関係が良好である。」が述べられたことを付記します。

第1日目〔11月1日(木)〕

名古屋大学

	事 項	時 間	内 容【実施場所】
～8:45	移動、到着		【野依記念学术交流館1階2A, 2B会議室】
8:45～	ミーティング①	45分	【評価部会打合せ室】 ・訪問調査全体のスケジュール及び当日の調査内容・方法の確認
9:30～	大学関係者（責任者）との面談	150分	【面談会場：野依記念学术交流館1階3A, 3B, 4A, 4B会議室】 ○面談対象者：学長、学部長、研究科長等の責任を有する立場にある者 ○面談人数：15人
12:00～	昼食・休憩	60分	【野依記念学术交流館1階 ラウンジ】
13:00～	一般教員及び支援スタッフ等との面談	60分	【面談会場：野依記念学术交流館1階3A, 3B, 4A, 4B会議室】 ○面談人数：9人（教授2人、准教授2人、講師2人、助教2人、技術職員1人）
14:00～	休憩	10分	【評価部会打合せ室】
14:10～ (120分)	教育現場の視察	15分 (14:15～14:30)	【視察を行う授業①】 部 局 名：文学部 授業科目名：アメリカ植民地時代・独立革命期の諸問題
		15分 (14:45～15:00)	【視察を行う授業②】 部 局 名：教養教育院 授業科目名：化学実験
	学習環境の状況調査	15分 (15:05～15:20)	【学習環境の状況調査①】 ○調査を行う施設等【附属図書館】
		15分 (15:25～15:40)	【学習環境の状況調査②】 ○調査を行う施設等【情報メディア教育センター】
教育現場の視察	15分 (15:45～16:00)	【視察を行う授業③】 部局名：工学研究科 a. 授業科目名：無機材料・計測化学セミナー（固体材料学） b. 授業科目名：応用有機化学セミナー（機能高分子化学）	
16:10～	根拠となる資料・データ等の補完的収集①	70分	【評価部会打合せ室】 ・訪問調査時の確認事項に関連した資料・データの調査 ①自己評価書一式（追加提出資料を含む） ②訪問調査時の確認事項に関連した資料・データ ③訪問調査1ヶ月前までに送付する「訪問調査時の確認事項」に○で示した根拠資料・データ等
17:30～	ミーティング②	30分	【評価部会打合せ室】
17:50～	休憩	10分	【評価部会打合せ室】
18:00～	現役学生及び卒業（修了）生との面談	90分	【面談会場：学生：野依記念学术交流館1階3A, 3B, 4A, 4B会議室】 ○面談人数：現役学生16人（学部：7人、大学院9人） 卒業（修了）生8人（学部：3人、大学院5人）
19:30～	ミーティング③	30分	【評価部会打合せ室】
20:00	1日目終了		

第2日目〔11月2日(金)〕

～9:00	移動、到着		【野依記念学术交流館1階2A, 2B会議室】
9:00～	ミーティング④	30分	【評価部会打合せ室】
9:30～	根拠となる資料・データ等の補完的収集及び確認②	120分	【評価部会打合せ室】
	(根拠となる資料・データ等の補完的収集及び確認②終了後)ミーティング⑤		【評価部会打合せ室】
11:30～	昼食・休憩	60分	【フォレスト（名古屋大学生協）】
12:30～	ミーティング⑤	120分	【評価部会打合せ室】
14:30～	休憩	10分	【評価部会打合せ室】
14:40～	大学関係者（責任者）への訪問調査結果の説明及び意見聴取	80分	【面談会場：野依記念学术交流館1階 3A, 3B, 4A, 4B会議室】 ・訪問調査結果の説明 ・意見交換 ※面談担当者等は、第1日目の大学関係者（責任者）との面談と同様
16:00	訪問調査終了		

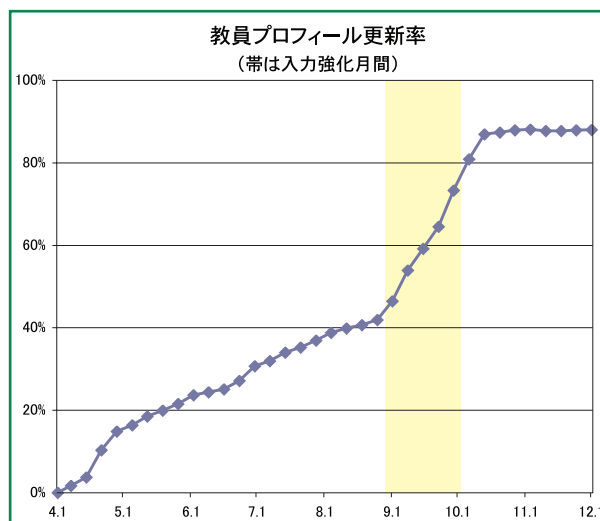
「教員プロフィール」へのデータ登録ありがとうございました

評価企画室では、2007（平成19）年9月から約1ヶ月間にわたって行った教員プロフィール入力キャンペーンを起点として、教員プロフィールへのデータ登録を推進しました。その結果、全教員の85%以上の方が最新データを入力するなど、みなさまのご協力のおかげで、優れた研究活動の学外への公開や、「20年度評価」における研究水準評価のための研究業績データの収集など、大学の活動に対して有効なデータベースに育ってきました。今後も、「組織（大学）としての自己点検評価」と「組織と個人（大学教員）の活動の社会への説明責任」という、大学にとって非常に重要な責務を同時に果たすため、データの質的充実をお願いします。

評価企画室では、教員プロフィールに集積されたデータを、これからも大学の評価活動などで有効に活用したいと考えています。特に、各部局で自己評価や外部評価を行う際の、研究活動に関する基礎データとして有効に活用することが可能です。教員プロフィールのデータに基づき、各部局における評価活動を支援したいと考えていますので、必要なことがあれば是非ともお問い合わせ下さい。

教員プロフィールに関するお問い合わせ：profile2007@epe.provost.nagoya-u.ac.jp

（朝倉宏一）



大学評価・学位授与機構の「大学情報データベース」への入力を行いました

大学情報データベースは、大学でのさまざまな評価活動での基礎資料となるデータを収集するために、大学評価・学位授与機構が国立大学法人を対象に実施している取り組みで、55種類の調査票からなります。本学では、必須項目である「共通調査票」への入力を行いました。

大学評価・学位授与機構は、入力実施大学法人のデータをとりまとめ、個別の大学の匿名性に配慮し、集計データや分布表を各国立大学法人と、それら进行评估する評価者へフィードバックを行います。参加大学は、自大学以外のデータを閲覧することはできませんが、平均値と参加大学全体における自大学の位置を把握することが可能とされています。

評価企画室では、次号以降のニューズレターにおいて、本データベースから得た情報を活用して、本学の状況について分かり易くお伝えする予定です。（藤井都百）

表：大学情報データベースで収集している項目

組織・施設に関すること	学校用地、附属図書館に関するデータ
教職員に関すること	本務教員の年齢別、取得学位別、専門分野別データ 教職員数、研究員数のデータ
学生に関すること	入試状況（編入学等）に関するデータ 学生数（出身高校所在地別）のデータ
教育活動に関すること	学位授与に関するデータ 学生数（休学者・退学者・転部転科者・留年者）に関するデータ
学生支援に関すること	入学金・授業料免除に関するデータ 奨学金に関するデータ
研究資金に関すること	科学研究費補助金等、競争的外部資金に関するデータ 共同研究・受託研究、寄附金に関するデータ
国際交流に関すること	学生の海外派遣に関するデータ 協定校等交流状況に関するデータ
社会貢献に関すること	公開講座、講演会・展示会等に関するデータ オープンキャンパスに関するデータ
評価改善活動に関すること	自己点検・評価活動、第三者評価等に関するデータ

室員の紹介

室長 松下 裕秀 (MATSUSHITA, Yushu)

- ・ 室の責務である、中期目標・中期計画の円滑な遂行に向けての計画・評価に関わる情報の収集と分析
- ・ 役員会等による大学経営・企画立案に資する基礎資料作成等の総括

副室長 栗本 英和 (KURIMOTO, Hidekazu)

- ・ 大学の、組織文化を活かした企画立案や組織活動の方法論の調査・研究
- ・ 大学の経営品質に必要な各種評価情報の収集と分析

室員 朝倉 宏一 (ASAKURA, Koichi)

- ・ 教員プロフィールのコンテンツ開発、計画評価のためのデータベースシステムの開発

室員 青山 佳代 (AOYAMA, Kayo)

- ・ 計画評価のためのデータベースの運用と分析、Institutional Research (IR) に関する研究

室員 藤井 都百 (FUJII, Tomo)

- ・ 大学の教育研究の質に関するデータ分析

事務補佐員 山川 京子 (YAMAKAWA, Kyoko)

- ・ 室の運営に関わる業務の支援、情報の収集、資料の整理

名古屋大学の卓越した文化遺伝子 データファイルデータの分析方法 その1

《定義によって値は変わる》(NU e-DNA No.5)

名古屋大学には、今年度5,612,070,000円の科学研究費補助金（直接経費）が配分されています（文部科学省発表、平成19年10月30日）。

以下に示すのは、「平成19年度科学研究費補助金（新規採択+継続分）の大学等別の採択件数・配分額」の一覧です。採択件数で比較すると、名古屋大学は7大学中7位となっています（配分額は7大学中5位）。

しかし、教員一人当たりの採択件数・配分額を比較すると、配分額は7大学中5位であり、採択件数では4位となります。

評価に関するデータを活用する際には、その評価目的に応じた集計・分析が重要になります。定義をしっかりと把握し、大学で活躍する教員一人ひとりのよさを表現するデータ分析を行う必要があります。（青山佳代）

表：2007（平成19）年度科学研究費補助金の大学別採択状況

	採択件数	配分額（直接経費） （千円）	教員数 （人）	教員一人当たりの採択件数	教員一人当たりの配分額 （直接経費）（千円）
東京大学	2906	17,831,460①	3997①	1.375③	6136.08①
京都大学	2366	11,954,750②	2878②	1.216⑦	5052.73②
東北大学	2007	8,660,150③	2675③	1.333⑥	4314.97④
大阪大学	1931	8,899,740④	2619④	1.356⑤	4608.88③
九州大学	1494	5,121,940⑥	2274⑤	1.522①	3428.34⑦
北海道大学	1436	5,018,128⑦	2082⑥	1.450②	3494.52⑥
名古屋大学	1318	5,612,070⑤	1806⑦	1.370④	4258.02⑤

（教員数の値は、各大学の「大学概要」（H19.05.01現在）を参考とした。○で囲んだ数字は順位）

評価企画室は学内の評価活動に資するデータの提供を行います

今後、大学評価・学位授与機構による大学情報データベースへ提供したデータを活用して、名古屋大学での評価活動に資するデータをウェブ上で発信する予定です。

*このほかにも、名古屋大学での評価活動に役立つデータの収集・蓄積・管理を行ってまいります。ご意見、ご要望等を是非お寄せください。

・大学評価に関する情報：

◎この「評価企画室ニュースレター」が取り上げられました！

（社）国立大学協会が発行した『国立大学法人計画・評価ハンドブック』のなかで、われわれ評価企画室のニュースレターが、「評価企画室の業務内容を、図や写真を多用して解説しており、計画・評価に詳しくない職員にも読みやすいものとなっている」と紹介されました。

◎国立大学法人の平成18年度に係る業務の実績に関する評価結果の公表

2007年10月に、国立大学法人の平成18年度の業務の実績に関する評価結果が公表されました。名古屋大学は、「すべての項目」において、「中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる」との評定を受けました。

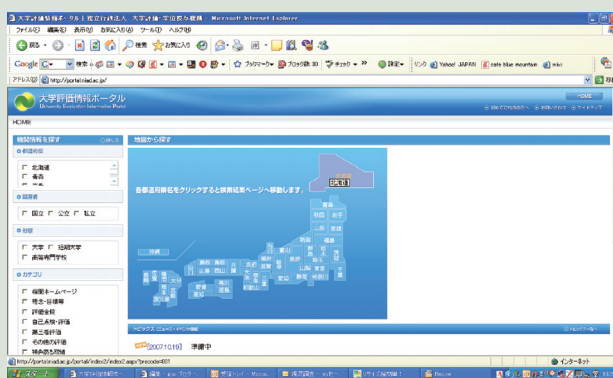
全体評価ならびに項目別評価を含む、名古屋大学の評価結果の詳細は下記URLにてご覧になれます。

http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/houjin/07103010.htm

◎大学評価・学位授与機構による「大学評価情報ポータルサイト」の一般公開

2007年11月に、大学等の教育研究活動の状況についての評価に関する情報の収集、整理及び提供事業の一環として、大学評価・学位授与機構によって、「大学評価情報ポータルサイト」が一般公開されました。

大学評価情報ポータルサイトURL: <http://portal.niad.ac.jp/>



評価企画室では、さまざまなデータ項目を活用して、名古屋大学のよさを発見する活動を今後も実施したいと思います。